

「書物・出版と社会変容」研究会 活動記録

・開催日・場所・報告者・報告タイトルなど。  
・百二十八回まではバックナンバーを参照。

第二百二十九回 二〇一九年七月六日 一橋大学佐野書院

鈴木圭一 「中本一編三冊意識」

肖琨 「「功過自知」から「二日一善」へ―善の記録志向を考える―」

第三百三十回 二〇一九年十月五日 一橋大学佐野書院

チェンドム・アンドレア Andrea 「『よしの冊子』の分析からみた寛政期の黄表紙の内表」

井上泰至 「編纂物軍書の時代―寛文期の武家社会と織

豊関係軍記―」

第三百三十一回 二〇一九年十一月二日 豊橋市美術博物館

豊橋大会

久住祐一郎 「森田光尋と森田家文庫」

西海賢二 「豪農と地域の教育文化活動―三河古橋家三代を中心にして―」

藤井奈都子 「古橋家文書研究会の五十年―」  
「羽田八幡宮文庫の成り立ちと特色」

第三百三十二回 二〇一九年十二月七日 一橋大学佐野書院

膽吹覚 「近世後期から明治中期における仏書の弘通

・販売―大行寺信暁の著書を通して―」  
森山武 「雪国を、江戸で―『北越雪譜』出版をめぐる中央×地方文化交渉史―」

(文責・古畑侑亮)